

# 風

竹久夢二

青空文庫



風が、山の方から吹いて来ました。学校の先生がお通りになると、街で遊んでいた生徒達たちが、みんなお辞儀をするように、風が通ると、林に立っている若い梢こずえも、野の草も、みんなお辞儀をするのでした。

風は、街の方へも吹いて来ました。それはたいそう面白そうでした。教会の十字塔を吹いたり、煙突の口で鳴ったり、街の角を廻まわるとき蜻蛉返とんぼかえりりをしたりする様子は、とても面白そうで、度子ど供達どもが「鬼ごっこするもん寄つといで」と言うように、恰ちやう

「ダンスをするもん寄つといで」といいながら、風の遊仲間あそびなかまを集めるのでした。

風が面白そうな歌をうたいながら、ダンスをしておどりまわ躍おどりまわ廻おどりまわるの

で、干物台のエプロンや、子供の着物もダンスをはじめます。すると木の葉も、枝の端で踊りだす。街に落ちていた煙草たばこの吸殻も、紙屑かみくずも空に舞まい上あがって踊るのでした。

その時、街を歩いていた幸太郎こうたろうという子供の帽子が浮かれだして、いつの間にか、幸太郎こうたろうの頭から飛下りて、ダンスをしなから街を駆けだしました。その帽子には、長いリボンがついていたので、遠くから見るとまるで鳥のように飛ぶのでした。幸太郎は、驚いて、「止れ！」と号令をかけたが、帽子は聞えないふりをして、風とふざけながら、どんどん大通りの方までとんでゆきます。

一生懸命に、幸太郎は追っかけたから、やつとこのことで追いついて、帽子のリボンを押えようとすると、またどつと風が吹いてきたので、こんどはまるで輪のようになると廻りながら駆けだしました。

「坊ちゃん、なかなかつかまりませんよ。」

帽子が駆けながらいうのです。

すると、こんどは おおどおり 大通から横町の方へ風が吹きまわしたの

で、幸太郎の帽子も、風と一しよに、横町へ曲ってしまいました。そしてそこにあつたビール樽たるのかげへかくれました。

幸太郎は大急ぎで、横町の角まできたが、帽子は見つかりません。

「ぼくの帽子がないや」

幸太郎は、もう泣きだしそうになって言いました。帽子をつれていった風も、幸太郎を気の毒になつてきて、

「坊ちゃん、私が見つけてあげましょう。」

そういつて、ビール樽のかげの帽子のしっぽを、ひらひらと吹いて見せました。幸太郎は、すぐ帽子のある所を見つけました。

「万歳！」

幸太郎は、帽子の尻尾しっぽをつかんで叫びました。

「風やい、もう取られないぞ！」

幸太郎は、帽子のつばを両手で、しっかり握っていました。

「ほう、ほう」風はそう言いながら、飛んで行きました。

エプロンも、木の葉も、紙屑かみくずもまたダンスをしていたけれど、幸太郎の帽子はもうダンスをしませんでした。





# 青空文庫情報

底本：「童話集 春」小学館文庫、小学館

2004（平成16）年8月1日初版第1刷発行

底本の親本：「童話 春」研究社

1926（大正15）年12月

入力：noir

校正：noriko saito

2006年7月2日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www>

W.aozora.gr.jp) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランテイアの皆さんです。

# 風

竹久夢二

2020年 7月13日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>